

要 望 書

令和3年11月

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟

要 望 書

山陰近畿自動車道は、日本海沿岸国土軸を形成する重要な道路でありながら、日本海側唯一の高速道路のミッシングリンクになっており、全線事業化の目途さえ立っていない状況です。

特に道路ネットワークの構築は、あらゆる産業の振興や救急医療など市民生活に直結し、本市が将来にわたって発展していくうえで最も重要な課題であります。

また、近年は、記録的な豪雨や大型大風などによる自然災害が頻発化・激甚化しており、このような自然災害への事前の備えは、喫緊の課題となっています。

国においては、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を策定し、地方においても国土強靱化対策に積極的に取り組み、成果をあげているところです。

つきましては、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の目標を確実に達成するための必要な予算を確保いただくとともに、新型コロナ収束後の官民を挙げた経済活動のV字回復と物流・観光等の経済活動復興のための道路整備として、山陰近畿自動車道の全線早期完成に向け、次のことを要望します。

- 1 大宮峰山道路の早期完成に向け、事業の推進を図られたい。
- 2 大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを早期に事業化されたい。
- 3 府県境までの区間について、地元希望ルート帯に配慮し、早期にルートを決定されたい。

令和3年11月17日

近畿地方整備局

局長 東 川 直 正 様

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟

会 長 松 本 聖 司

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟

会 長 松 本 聖 司

副会長 池 田 惠 一

副会長 櫻 井 祐 策

幹 事 谷 津 伸 幸

幹 事 中 野 勝 友

幹 事 永 井 友 昭

幹 事 水 野 孝 典

金 田 琮 仁

川 戸 一 生

多賀野 一 彦

富 田 恵 輔

鳴 海 公 軌

浜 岡 大二郎

東 田 真 希

平 井 邦 生

和 田 晋

和 田 正 幸

要 望 書

令和 3 年 1 1 月

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟

要 望 書

京都府北部に位置する京丹後市は、世界認定の山陰海岸ジオパークに代表される豊かな自然やその景観、四季折々の山海の幸とともに悠久の歴史に育まれた優れた文化を有し、これらの地域資源の連携・活用を図りながら新しい価値観を創造し、地域の再生を目指して懸命な努力を続けています。

特に道路ネットワークの構築は、あらゆる産業の振興や救急医療など市民生活に直結し、本市が将来にわたって発展していくうえで最も重要な課題であります。

しかし、山陰近畿自動車道は、日本海沿岸国土軸を形成する重要な道路でありながら、日本海側唯一の高速道路のミッシングリンクとなっており、全線事業化の目途さえ立っていない状況です。

また、近年発生している地震災害や豪雨災害においては、道路ネットワークの確立と防災力強化の必要性が再認識されており、危機管理・防災体制の強化の上でも都市部と連結する高速道路ネットワークの整備が重要不可欠です。

つきましては、次の要望を実現していただくようお願い申し上げます。

- 1 大宮峰山道路及び峰山インターアクセス道路の早期完成に向け、事業の推進を図られたい。
- 2 大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを早期に事業化されたい。
- 3 府県境までの区間について、地元希望ルート帯に配慮し、早期にルートを決定されたい。
- 4 防災機能の向上を図るため、緊急輸送道路の安心・安全な通行環境の確保を図られたい。

令和3年11月17日

京都府知事 西 脇 隆 俊 様

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟
会 長 松 本 聖 司

京丹後市山陰近畿自動車道等建設促進議員連盟

会 長 松 本 聖 司

副会長 池 田 恵 一

副会長 櫻 井 祐 策

幹 事 谷 津 伸 幸

幹 事 中 野 勝 友

幹 事 永 井 友 昭

幹 事 水 野 孝 典

金 田 琮 仁

川 戸 一 生

多賀野 一 彦

富 田 恵 輔

鳴 海 公 軌

浜 岡 大二郎

東 田 真 希

平 井 邦 生

和 田 晋

和 田 正 幸